

## 【樹木の部屋】

### ヤマモモ (ヤマモモ科ヤマモモ属 *Myrica rubra*)

**和名**：ヤマモモ (山桃) **別名**：ヤンメ、ヤンモ、ヤアモ

**英名**：red bayberry, wax myrtle

ブナ目 常緑高木 **原産地**：日本、中国、インド

**花言葉**：教訓、一途、ただひとり愛する **花の色**：赤



← 写真-1 ヤマモモの樹姿

撮影日：2018年02月19日

撮影場所：平城宮跡東院庭園  
(奈良市)にて

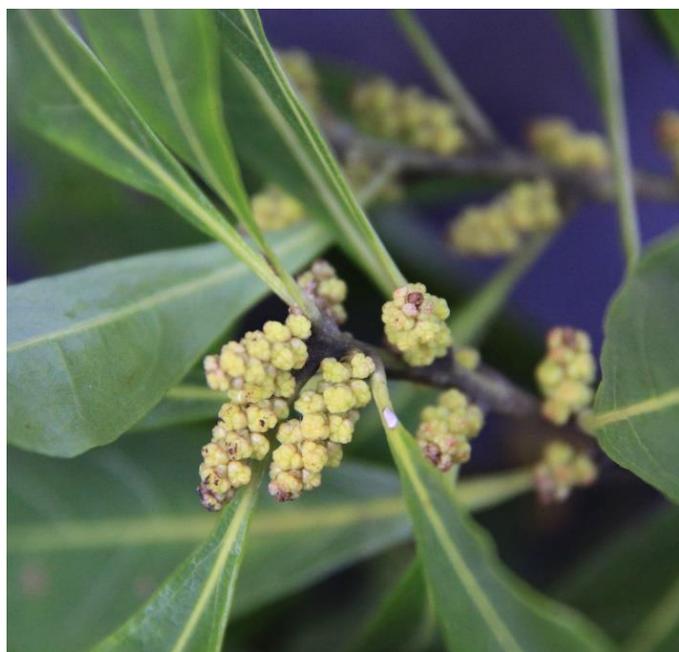
撮影者：M さん

→ 写真-2 ヤマモモの小枝(新枝)

撮影日：2018年02月19日

撮影場所：平城宮跡東院庭園  
(奈良市)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ヤマモモの雌花(蕾)

撮影日：2017年04月01日

撮影場所：大平城宮跡東院庭園  
(奈良市)にて

撮影者：M さん



← 写真-4 ヤマモモの雄花(蕾)

撮影日：2017年04月01日

撮影場所：大平城宮跡東院庭園

(奈良市)にて

撮影者：M さん

奈良市の平城宮跡にある東院庭園を訪れた際、見かけました。ヤマモモは、一般の家庭や街路樹などに、よく植えられている樹木の一つですが、雄花(蕾)や雌花(蕾)を目にする機会が少なく、珍しさも手伝って、

カメラに納めました。

ヤマモモの名の由来は「山のモモ」の意味で、山に自生していることから食べられる果実がなるということから名づけられたそうですが、バラ科のモモとは無縁の植物です。雌雄異株で、4月に、小さく目立たない花を咲かせ、雌木には初夏に暗紅紫色のやや松脂臭のある果実がなります。

果実は生食のほか煮物、ジャム、砂糖漬けなどさまざまに利用できますが、生食用には日もちが悪いためあまり市場には流通していないようです。

樹皮を煮出した汁で染めた色を「媚茶(こびちゃ)」と呼び、江戸時代に流行ったそうで、もともとは漁網を丈夫にするための染料として使われていたそうです。

#### \*剪定・整枝について・・・

混み合った枝や樹形から飛び出るほど長く伸びた枝(徒長枝)を切る「間引き剪定」が基本です。適期は3月～4月。剪定の目的は樹形の姿を整えることと、隔年着果を防ぐことです。全体のバランスを考えて、樹形を乱している枝を切り詰めていきます。切る位置は枝分かれている付け根の位置で切ります。

花芽は昨年伸びた枝の先端に着くので、先端を揃えるように刈り込むと、花芽を切り落とすことになるから要注意です。